



GUNBOH

群 萌

第179号 2013年1月10日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-10

本郷TKビル 1F

TEL 03 (3868) 9663

FAX 03 (3868) 9664

発行責任者 岡嶋 謙

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

新たな局面を生み出していく年に

全国化学労働組合総連合 会長 岡嶋 謙



化学総連に集う単組・組合員の皆様、明けましておめでとうございます。

ご家族ともども新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から化学総連の活動に対し、ご理解とご支援をいただきありがとうございます。

昨年を振り返ってみますと、5月21日には932年ぶりに本州の広い範囲で『金環日食』が観測され、翌日には自立式鉄塔としては世界一の『東京スカイツリー』が開業、そして7月末からの『ロンドンオリンピック』でのメダルラッシュ、10月には京都大学の山中教授が『ノーベル賞』を受賞されるなど、日本に様々な感動と歓喜をもたらした一年となりました。

こうしたなか日本経済は、震災からの復興需要もあって少しずつ回復の途を辿っていましたが、欧州の金融・信用不安や新興国での成長減速の影響に加え、歴史的な円高、中国での抗日デモ等も重なって、先行きに不透明感が高まっています。

「疾風^{しっふう}に勁草^{けいそう}を知る」という中国の故事があります。「激しい風が吹いて初めて強い草が見分けられる」という意味ですが、国内製造業には六重苦があると言われる逆風の中、各企業労使におかれてはチームケミストリーを発揮して、こういう時だからこそ将来に亘って発展していくための布石を打っていく一年にしなければならぬと考えます。

国の社会保障制度（年金、医療、介護、子育て、教育等）は、人口構造の変化に伴って適宜適切な見直しを行っていかねばなりません。急速な少子高齢化の進展に対してこれまで十分な対応を図ってこなかったツケをこれから払っていくこととなります。その一つとして2013年4月から公的年金の支給開始年齢が引き上げられ、いわゆる「無年金期間」がいよいよ男性から始まり、60歳以降を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。こうしたことから各企業の労使では、法改正に則った「60歳以降の雇用延長制度」について対応を図っていくこととなります。

さらには、こうした「高齢者」のみならず、失業率の高い「若年層」や育児期の就業率低下が課題の「女性」、社会進出意欲の高い「障がい者」、グローバル化の進展による「外国人」労働者の進出等、働きたい誰もが働き続けられる環境づくりが求められています。全員が働くことの意識改革を行い、そして一人ひとりが周囲のダイバーシティに配慮するとともに、自らのワーク・ライフ・バランスの実践により、各企業の発展と充実した人生の創造につなげていただきたいと思います。

今年は「巳年」です。「巳」とは植物に種子がではじめる時期、草木の生長が極限に達して次の生命が作られ始める時期と言われています。現在、変化が激しい時代にありますが、文字通り「巳」のように、公私ともに将来のための新たな局面を生み出していく一年としなければなりません。

『絆で結ぶ人と化学 次代を創る化学総連』のスローガンの下に私たちは、基本姿勢をしっかりと継承しつつ、新たな時代に合わせた工夫を凝らし、積極的に諸活動に取り組んでいきます。加盟組織のご理解とご協力をお願いして、新年のあいさつとさせていただきます。

～化学総連活動報告～ 第4回安全担当者会議を開催！

安全を五感で学び、自分で考える人づくりに向けて

2012年12月17日から18日にかけて、6年間無事故無災害を継続されている、信越化学工業株式会社武生工場にて化学総連第4回安全担当者会議を開催しました。昨今、化学業界において度重なる事故が発生しております。その背景には設備の老朽化、世代交代、合理化による一人あたりの仕事の負荷増など、様々な要因が絡み合い単純な問題ではありませんが、社会の一員として、安全安定操業は化学業界全体の責任であります。化学産業で働く者の代表である化学総連としても、様々な安全の取り組みを行っており、2011年、4年ぶりの開催となった第3回（於 DIC 株式会社北陸工場）に続き、各単組の安全担当者にご参集頂き、今回第4回を開催する運びとなりました。以下にその概要を報告致します。

主催者代表挨拶

調査情報委員会の寺前委員長（DIC 労組）より、信越化学工業株式会社武生工場の労使の皆様に対する御礼と



挨拶する寺前委員長

共に、「各社の安全文化を感じ各社各単組に持ち帰り、安全向上に役立てて欲しい」とご挨拶を頂きました。

会社側代表挨拶

武生工場事務部長の田中様より、「武生工場では安全活動に関して地域の目を意識しながら活動を行っている。今年は化学産業での事故が相次いだ事もあり、総合防災訓練に例年以上に多くの区長が参加し、また工場見学の依頼も頂いている。プラントがIT化されて昔とは教育・安全も変化してきているが現場の力が大切であり、また人との関わりも今後重要と考える」とご挨拶を頂きました。

信越化学工業株式会社武生工場の安全の取り組みについて

環境保安部長の梯^{かけはし}様より、武生工場の事業の概要と安全の取り組みについてご説明を頂きました。今回見学をさせて頂く危険体感訓練場だけでなく、リスクアセスメントや職場の声を基にしたルールの見直し、巡回活動など、様々な角度からの取り組みを行っている事をご紹介頂きました。

危険体感訓練場の見学・実習

工場内の危険体感訓練場にて、挟まれ・巻き込まれ、粉じん爆発などの発生、油圧装置や空気圧（加圧・減圧）などの原理現象を、実際の装置



巻き込まれ体感の実習

を用いて五感で感じ体感する事で、その危険性について認識を深めることができました。また安全装置のあり方についても、人がミスしても自動で止まる、危険源に接触できなくする工夫など、安全設計に対し非常に参考になる事例を数多くご紹介頂きました。

各社の災害発生状況・安全対策に関する情報交換

各単組にて各社の災害発生状況や取り組んでいる安全対策について報告を頂き、意見交換を行いました。各社事業内容も様々な中、ゼロ災に向けた精力的な取り組みが行われており、災害件数の減少がその成果としてしっかり現れている事を確認する事ができました。

今後も化学総連は、化学産業が社会の信頼を取り戻せるよう、ゼロ災に向けた様々な取り組みを展開して参ります。皆様のご支援、ご協力を引き続き、宜しくお願い致します。



会議風景



分科会での意見交換